

竹原管内景況調査

3月の景況DIは、製造業は好転、非製造業は横ばい

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和4年3月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

調査概要

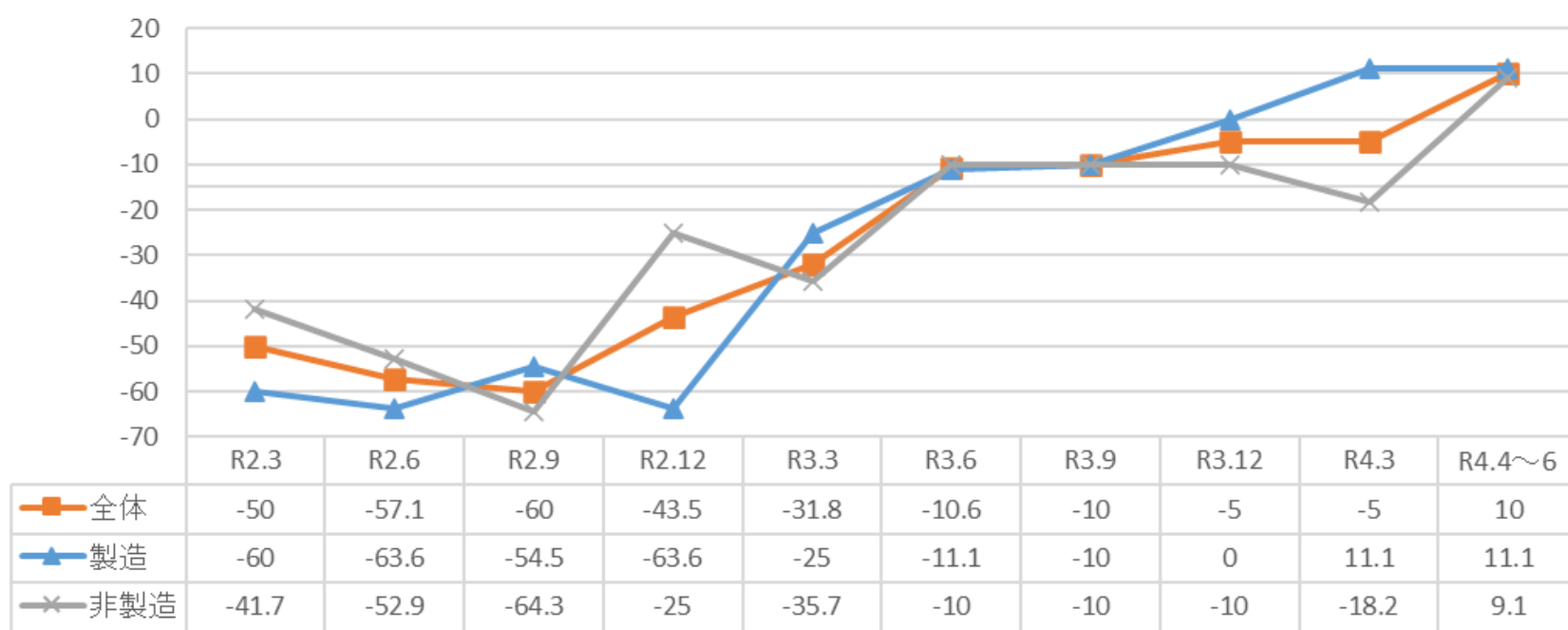
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和4年3月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	16	9
建設	5	3
小売	11	5
サービス	15	3
合計	47	20

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



3月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は同ポイントで、非製造業は8.2ポイント悪化でした。
3月と比べて4月～6月までの見通しは、全体では、15ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

1. 貴社の景況が好転(悪化)した理由について

- ・飲食店向けの注文が戻らない。(日本酒)
- ・前年までの新型コロナ影響に伴う巣ごもり需要増の反動が今期も出ている。商品の価格改定実施も、原資材価格の高騰が止まらず収益面では厳しい状況が継続。一方で、リモート会議など新たな働き方は定着し、一定の効果が継続。(食品)
- ・令和3年度に計画された生産計画の一部が、来年度に延期された。材料の不足から、購入が遅れ納入ベースに遅れが生じた。(機械)
- ・コロナの影響が、やや薄れつつある。(機械)
- ・昨年あたりから、受注が増えてきた。この先も、昨年より見通しがいい。(鉄工)
- ・仕入れ価格が上昇しつつある。(機械)
- ・災害によって、受注及び手持ち工事が増加した。(土木)
- ・コロナ禍より、お客様が減ってきており、今又コロナが増えてきたので、お客様は減ってきている。(雑貨)
- ・3月は、商品の仕入れ価格上昇に、販売価格を上げるのが追い付いていない。4月以降は仕入れ価格が下降してくると思うので、景況は好転すると思う。(食品)
- ・コロナ禍及び、現状の情勢により、非常に先行きが見通せない状況(スーパー)

2. 令和4年度の業界動向の見通しについてお聞かせください

- ・輸出のみ好調(日本酒)
- ・コロナによる外出制限が解除になるも、コロナ前までの需要回復には時間がかかる。新しい生活様式の定着、消費行動の変化はどうか、引き続き注視が必要。(食品)
- ・材料の高騰や購入資材の品不足は生じるが、旺盛な需要におわれる予定。(機械)
- ・上昇に向かっていくと思われる。(機械)
- ・少しずつだが、持ち直している。(鉄工)
- ・手持ち工事が多く、人手が不足。場所が悪いところが多く、利益が下がる。(建築)
- ・災害関連工事が落ち着いたので、工事量が減少傾向にある。(土木)
- ・取引先にはお客様が増えてきているので、注文をいただき、売り上げが上がると思います。(雑貨)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)